

災害調査 秋田県東成瀬村椿川雪崩災害調査 (2016. 12. 22)

研究代表	雪氷防災：安達 聖	実施期間	平成 28 年度
研究参加者	雪氷防災：小杉 健二, 阿部 修		

【目的】

2016年12月21日14時頃、秋田県東成瀬村椿川の大柳沢で雪崩が発生し、沢水の確認をしていた地域住民2名の内1名が雪崩に巻き込まれ死亡した。翌12月22日に現地に赴き、現地調査と聞き取り調査を行った。本調査の目的は雪崩の発生原因を明らかにすることにより、災害防止に資することである。

【実施内容】

調査実施日：2016年12月22日

調査箇所：秋田県東成瀬村椿川の大柳沢（図1）

【成果と効果】

雪崩が発生した地点は南向きの谷状の地形で、谷の幅は約5m、傾斜は約40度であった（図2）。斜面の地肌が露出し、デブリに葉や土砂が混ざっていることから全層雪崩が発生したと考えられる。破断面は確認することができなかったが、図1から発生区の標高差を大きく見積ると100m以上になると推測された。調査時にはデブリは埋没者の救助と、川の流れにより消失していた。図2中の赤線は聞き取り調査により推測されたデブリの形状である。デブリの体積は約50m³と推測され、周辺に残ったデブリの密度は600kg/m³に達し、非常に重く硬かった。

図3に雪崩現場周辺の平地で行った積雪断面観測結果を示す。積雪深は55cm、雪質はほぼ全層で硬度の小さいぬれざらめ雪であった。秋田県内では平年よりも気温の高い日が続いており、斜面上の積雪が急激にぬれざらめ雪に変質し、全層雪崩を引き起こしたと推測される。雪崩が発生した12月21日には雪崩注意報が出されていた。



図1 雪崩発生地点（赤丸印）



図2 雪崩発生区（赤線：デブリ推定図）

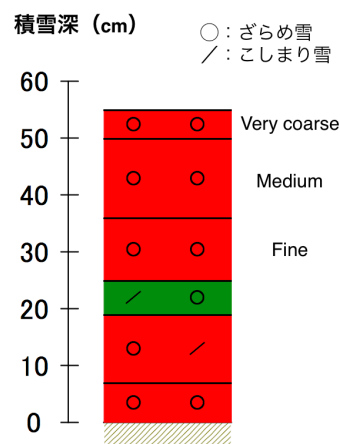


図3 積雪断面観測結果